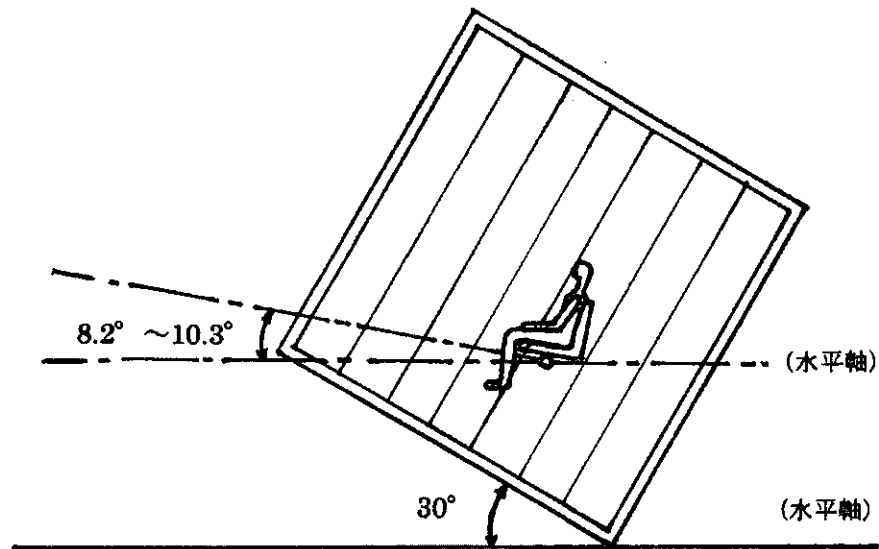
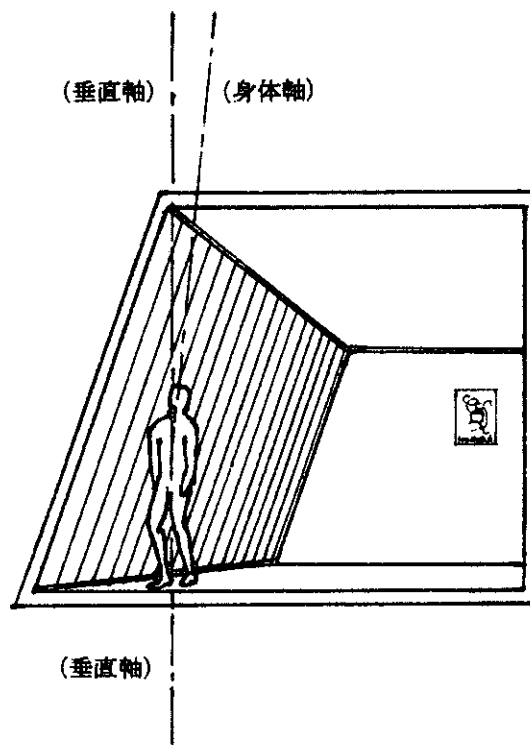


参考図01 立方体小部屋の実験：
人間は周りの視覚的枠組みに大きく支配される。

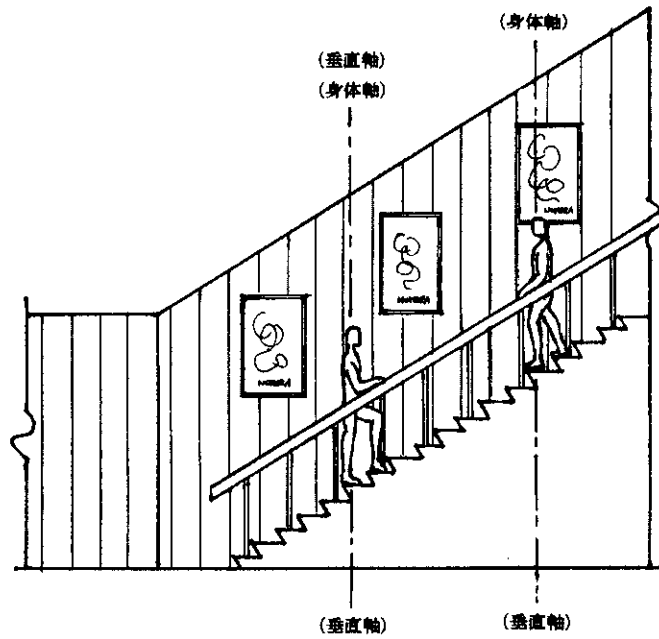


参考図02 傾斜壁の影響：
知らずの内に体の軸が垂直線から傾斜している。



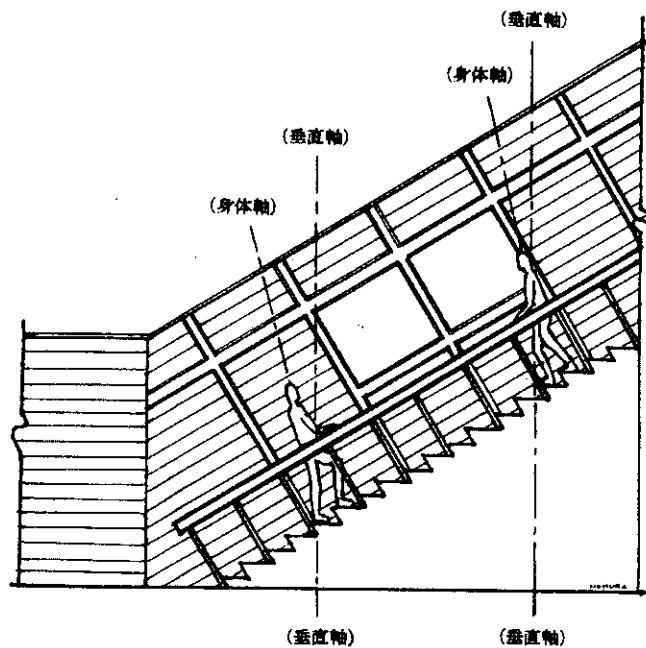
参考図03 水平・垂直をわきまえた階段：

手摺子も、壁の線や壁広告の枠線も垂直であり、これによって、人は自分の体を垂直に安定させている。「参考図04」と比較すると、その良し悪しは明らかである。



参考図04 水平・垂直を無視したエスカレーター：

エスカレーターの腰板の斜め縦ぎ目や、窓や壁の傾斜線に支配されて、知らずの内に、昇る人は反りかえり、降る人はつんのめりがちとなる。

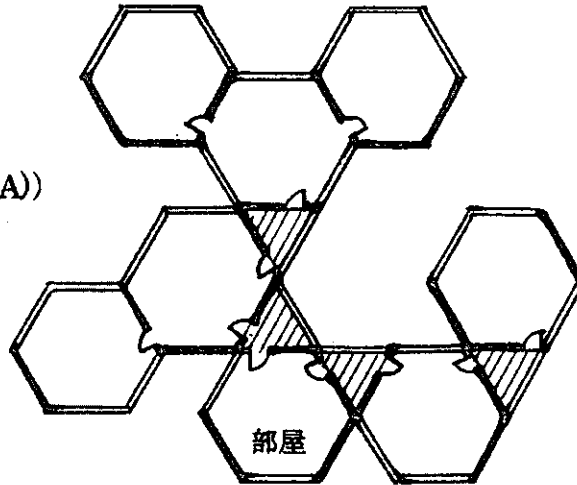


参考図05 直交性と方向把握：

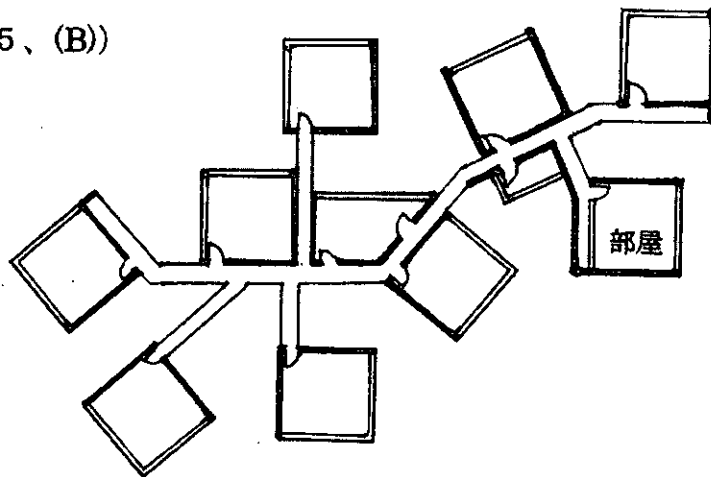
(A) 六角形や三角形を不用意に用いると、方向感覚を失う。保育所や展示館などに見られる。

(B) 直交以外の方向に伸びた廊下も方向感覚を失う。増築を重ねた和風旅館などに多い。

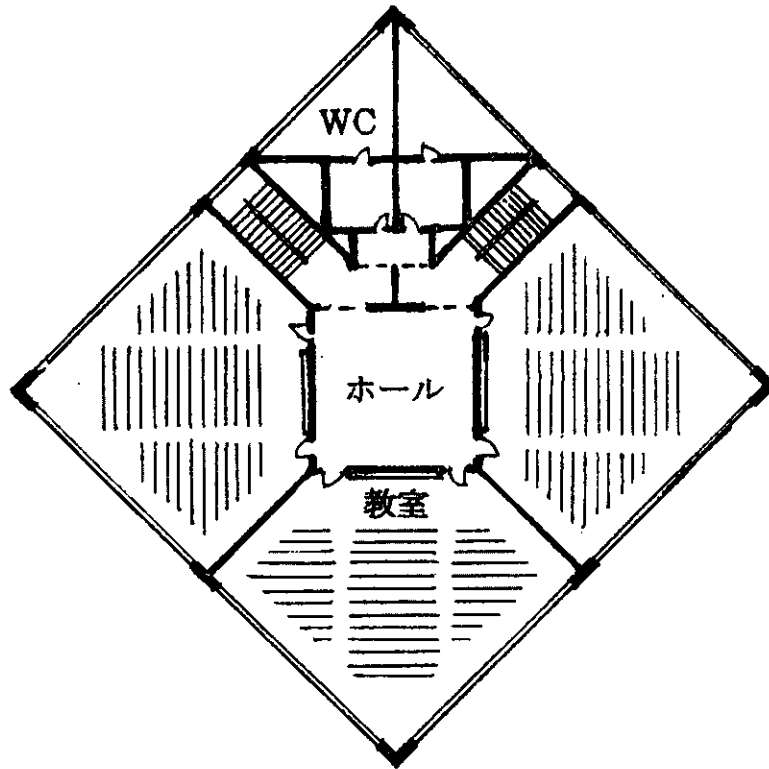
(参考図一5、(A))



(参考図一5、(B))

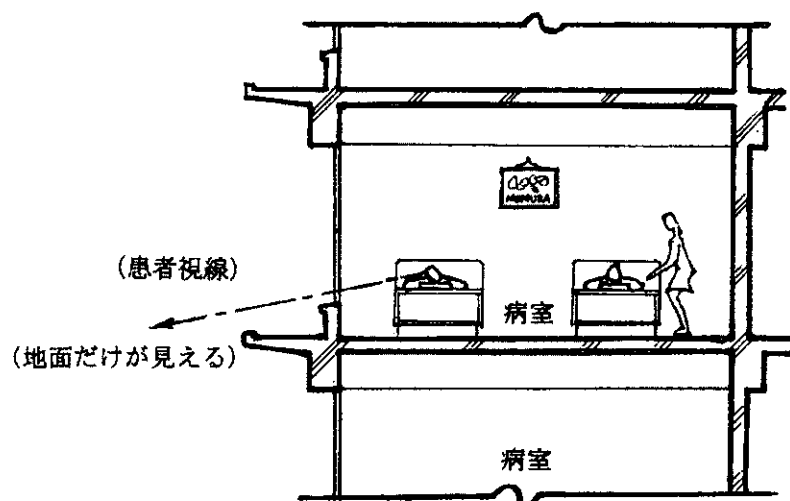


参考図06 対角線配置の教室：



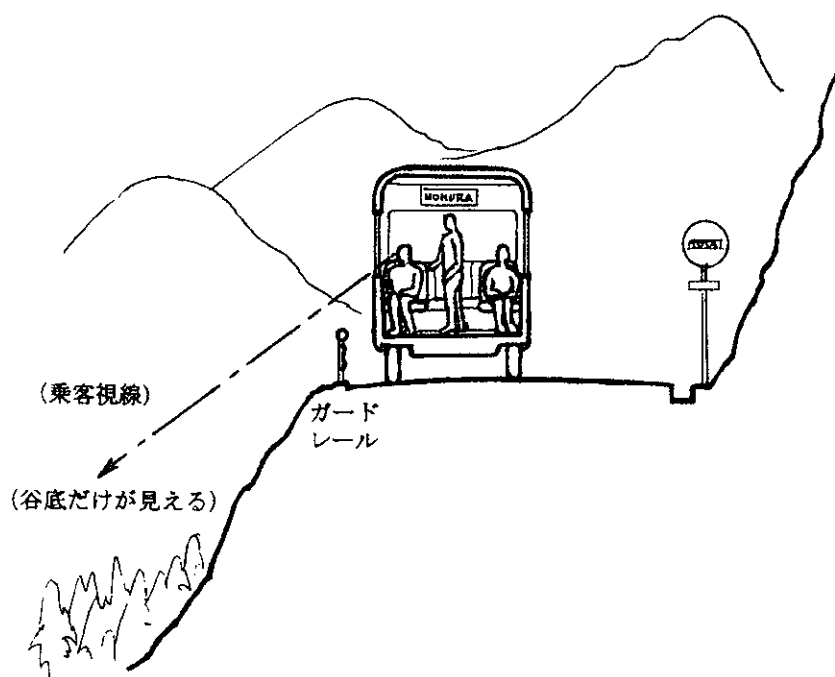
参考図07 床の見えないベッド上の患者：

窓台ないし底やバルコニーの床が見えず、はるか下の街並みや大地だけが
見えているのは非常に不安。



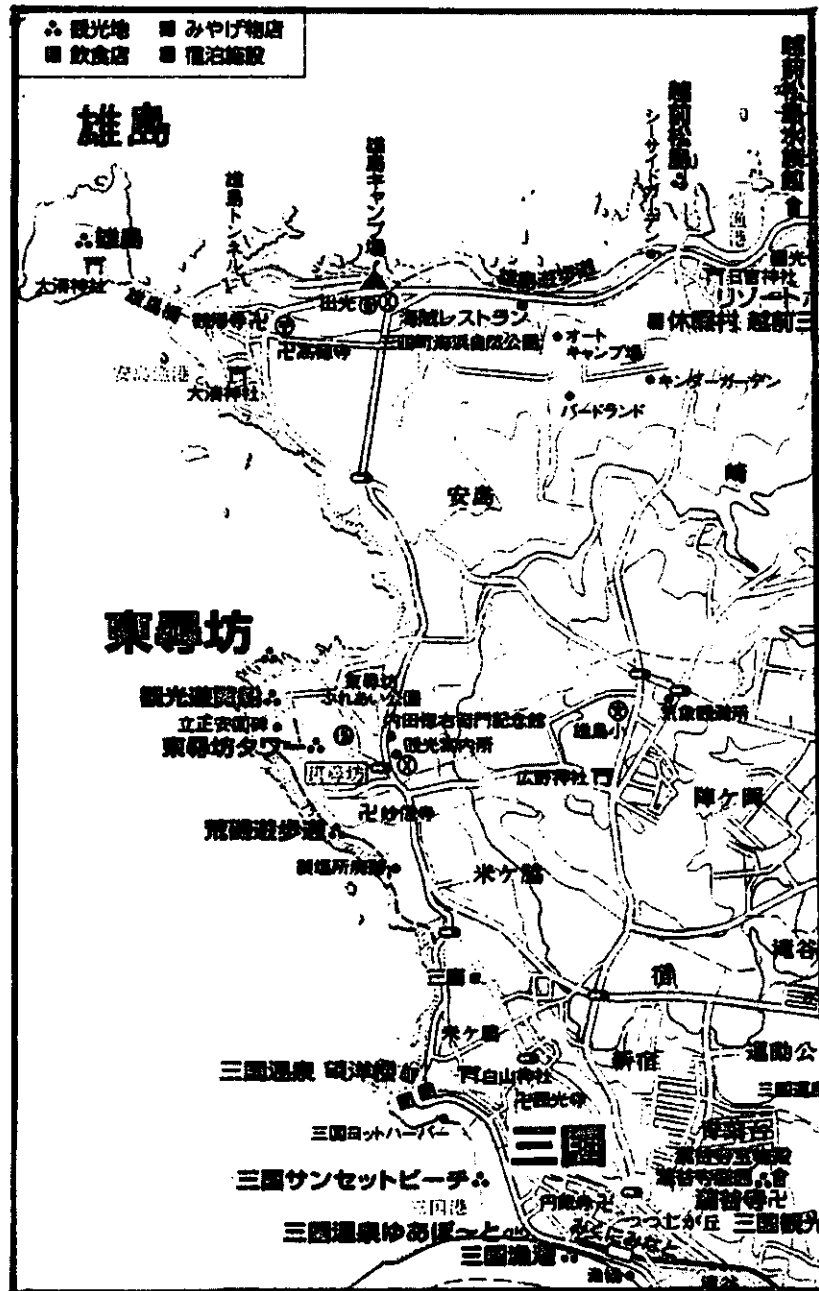
参考図08 崖下しか見えないバスの窓：

路肩やガードレールが見えない。崖道のバス旅行。



参考図09 東尋坊付近の地図：

(旺文社、上撰の旅「北陸・金沢」、東尋坊・三国より)
 地図の左方と上方は日本海。遺体が雄島まで流れ着くことがある。



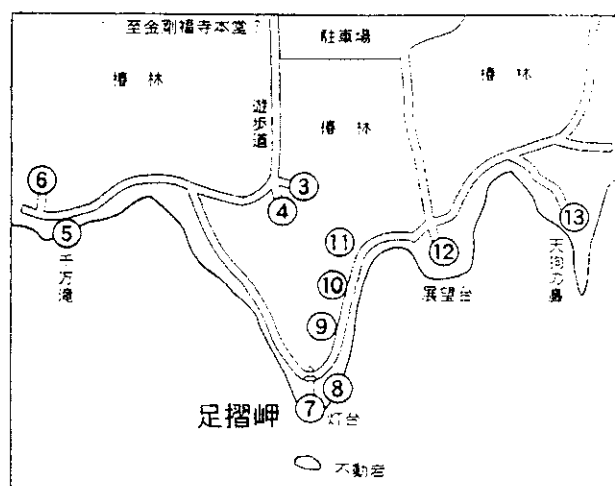
参考図10 足摺岬の七不思議に関する地図：

(金剛福寺の足摺山七不思議の解説図書より)

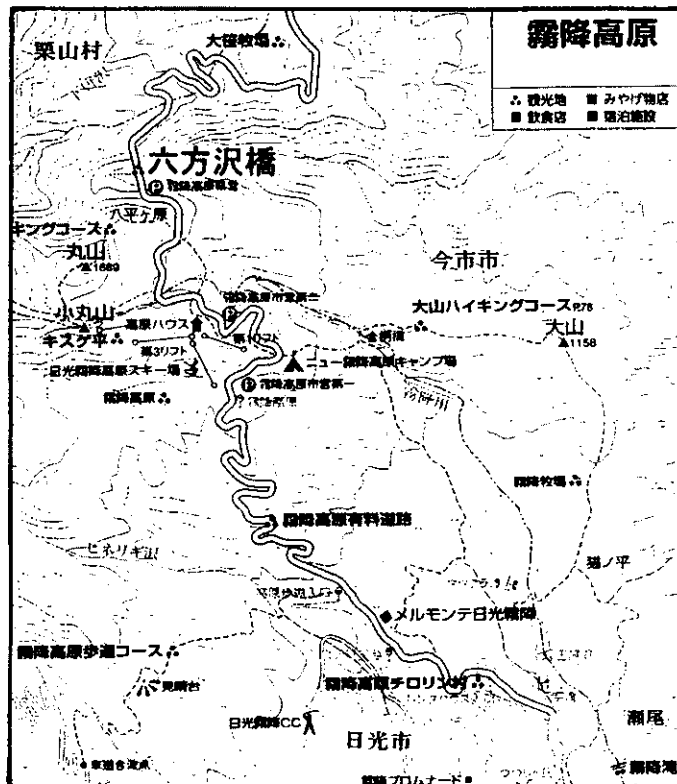
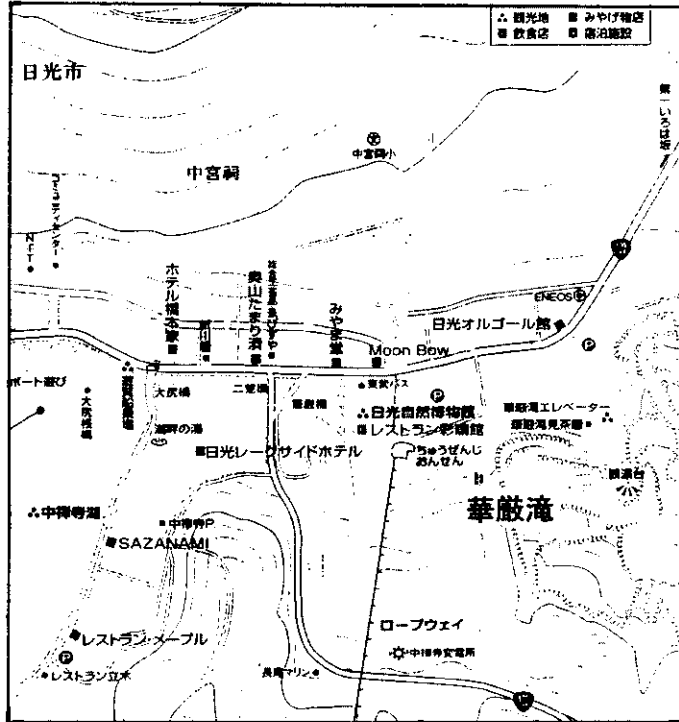
地図下方は大平洋。足摺岬には、遺跡や七不思議の伝えがある。

(地図中の記号解説)

- ③動揺の石（揺るぎの石）：弘法大師開山の折、この石を発見。この岩の揺るぎ具合で心の動揺を試す。
- ④不増不減の手水鉢：平安中期、賀登上人と弟子日円上人が、南海の補陀落浄土に渡海せんとしたが、弟子日円上人が先発渡海したのを悲しみ、賀登上人は岩壁に投身した。その時の涙が不増不減の水となったと伝えられる。
- ⑤千万滝（潮の満干の手水鉢）：大石に雨水の溜まる窪みがあり、この雨水が海水の干満のごとく増減するため七不思議の一つとなる。
この大石の横は断崖となっており、この場からの投身自殺は多い。
- ⑥亀石：椿林の中に、自然石の亀石があり、亀呼場に向かって立つ。
- ⑦亀呼場：（大声で亀を呼ぶと亀が浮上）：弘法大師開山の折、海中にある不動岩に渡り修行しようとした時、ここより亀を呼び不動岩に渡ったと伝えられる。
付近には足摺岬の灯台があり、この付近からの投身自殺も時々ある。
- ⑧一夜建立の鳥居：弘法大師が熊野権現遙拝のため建立しようとしたが、天魔（天狗）の妨害に遭い、建立に至らずと言う。
- ⑨各号の岩：弘法大師開山の折、自らの爪で彫ったと言われる六文字の各号あり。
- ⑩地獄の穴：昔、深き穴あり、賽銭を投ずると、しばし響きが止まらなかったと言う。
- ⑪阿字石：弘法大師開山の折、この大石に梵字の「阿」を彫ったと言われる。
- ⑫灯明台（展望台）：昔、木造四角の灯明台があり、菜種油を灯して大宇宙と海神に祈った所。
- ⑬天狗の鼻：昔ここで、金峰上人（役の行者）が一指を上げて降ろしたところ、天魔（天狗）が躓いて退散したと言われる。近くに絶壁があり、投身自殺が多い。



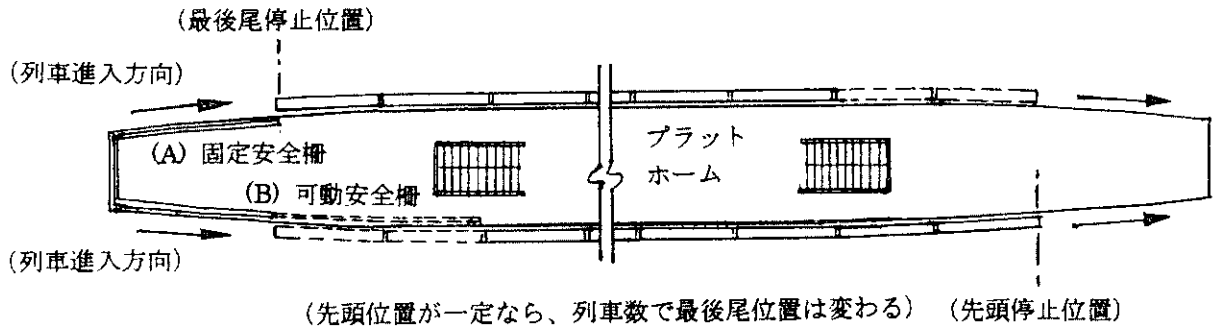
参考図11 華厳の滝・六方沢橋付近の地図：
 (旺文社、上撰の旅「日光・那須・栃木」中禅寺温泉・霧降高原
 より)



参考図12 列車進入端部の安全柵設置部分：

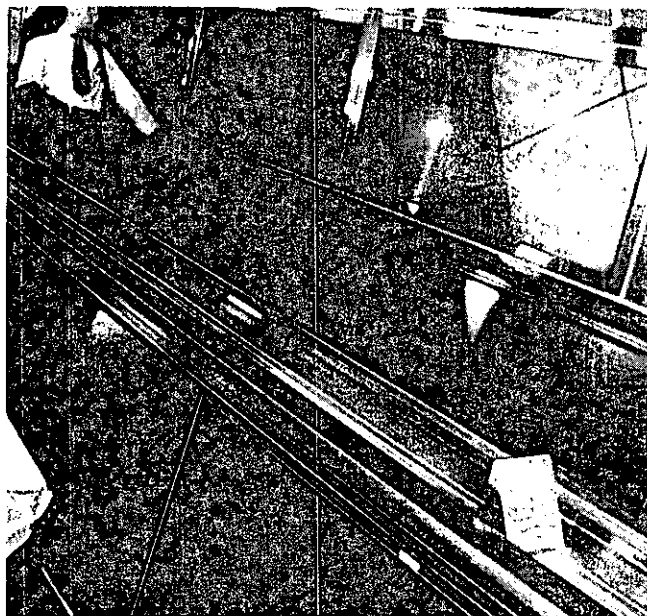
(A) 列車最後尾の停車位置が一定なら、進入端部の安全柵は固定で可

(B) 列車先頭の停車位置が一定なら、進入端部の安全柵は可動が必要。



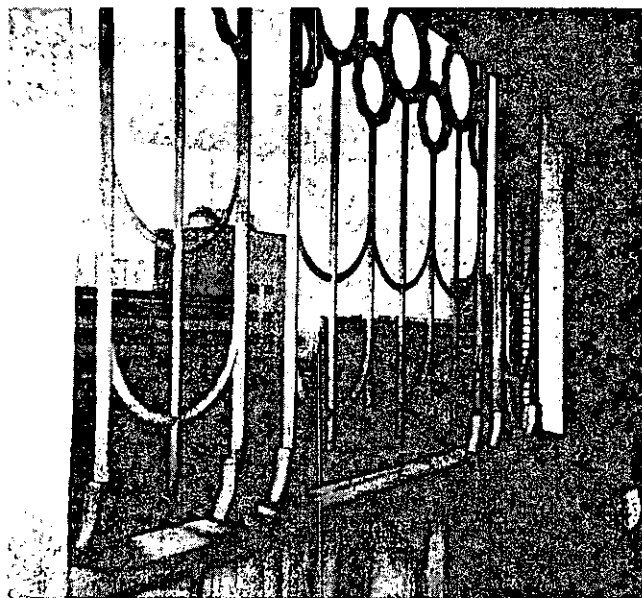
参考写真01：

視野の水平軸を無視したエスカレーター。



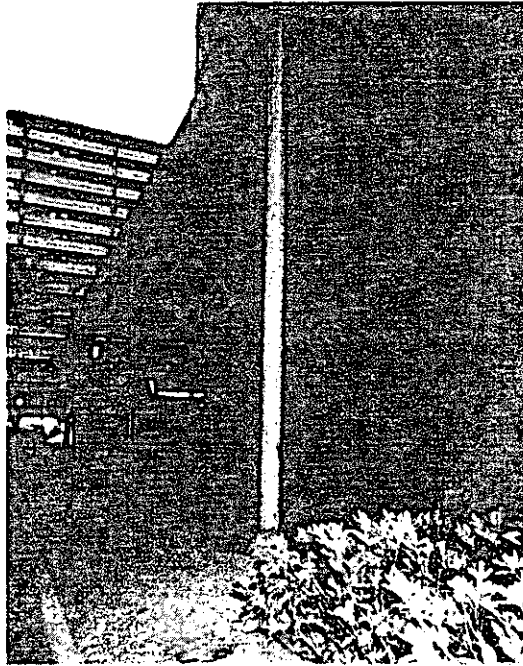
参考写真02：

開放廊下の設けた飛び下り防止のフェンス・デザイン（高島平団地）。



参考写真03：

一階の飛び下り防護用ネット庇（高島平団地）。



参考写真04：

投身自殺多発後、住民に配付したパンフレット例（高島平団地）。



参考写真05：

福井県東尋坊の絶壁。右上に見えるのが雄島。遺体が雄島まで流されて発見されることもある。



参考写真06：

東尋坊の崖脇遊歩道にある「いのちの電話」。



参考写真07：

東尋坊周辺の民宿と自殺防止の呼びかけ標識。標識の左上にも「いのちの電話」が見える。



参考写真08：

「千万滝」の絶壁。ここからの投身が多い。投身を目撃された一例もこの場所。



参考写真09：

亀呼場の断崖。足摺岬の最南端にあり、投身自殺が多い。右上に見える島が弘法大師が渡ろうとした不動岩。



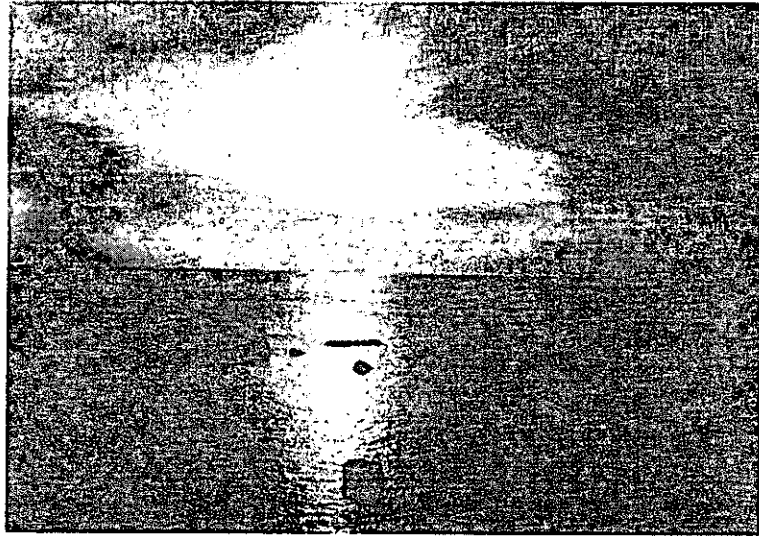
参考写真10：

展望台付近の絶壁。ここも飛び込みが多い。



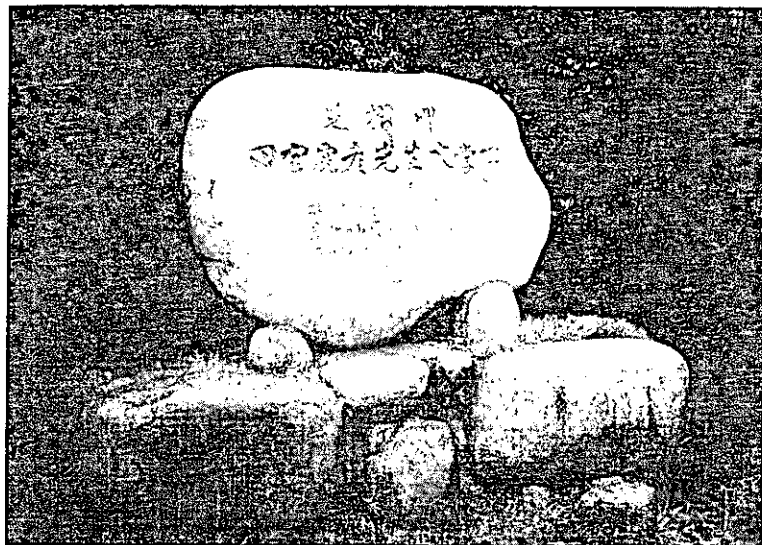
参考写真11：

灯台付近から。観音浄土ありと信仰された南方大平洋の夕日を望む。



参考写真12：

足摺岬にある田宮虎彦の文学碑。



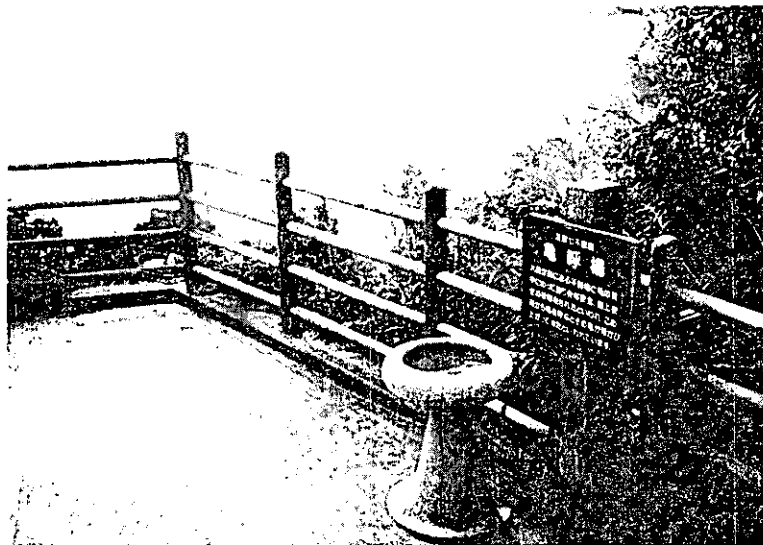
参考写真13：

足摺岬一帯を覆う椿の密林。日中もやや薄暗い遊歩道。



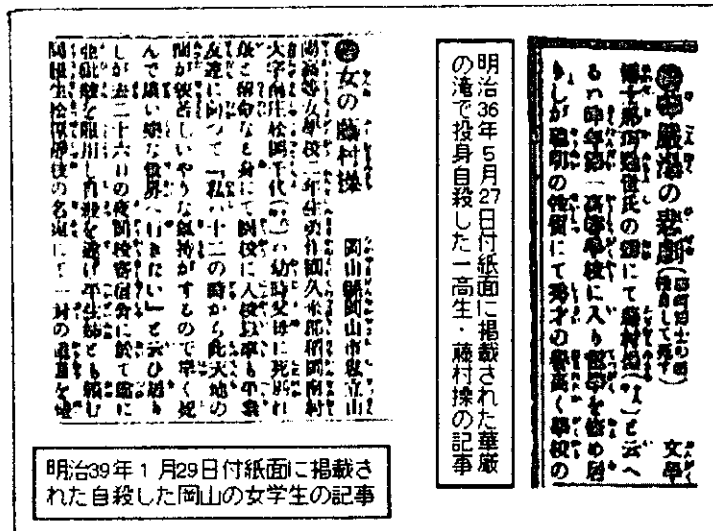
参考写真14：

亀呼場にある防護柵。不注意による転落防止程度のもの。



参考写真15：

1903年の藤村操青年の投身自殺と、1906年に後追い自殺の流行を報じた読売新聞の紙面。（www.yomiuri.co.jp/yomidatas/meijiより）



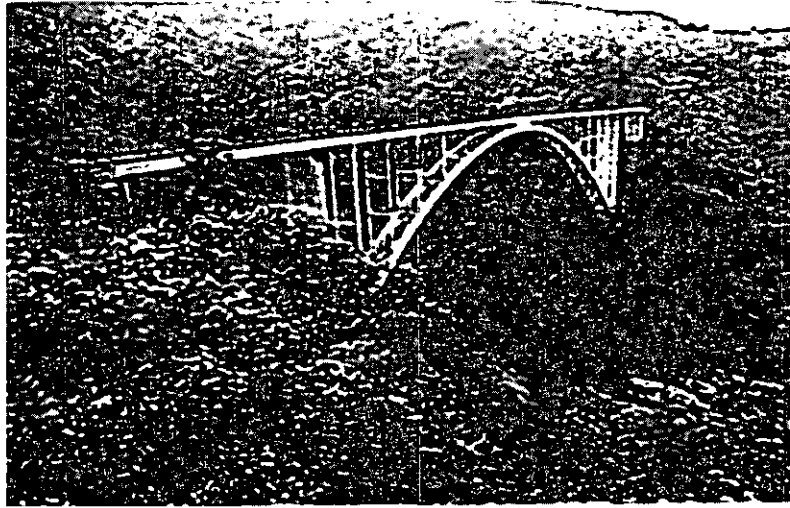
参考写真16：

観瀑台より見た「華嚴の滝」。(sight-seeing-japan.comより)



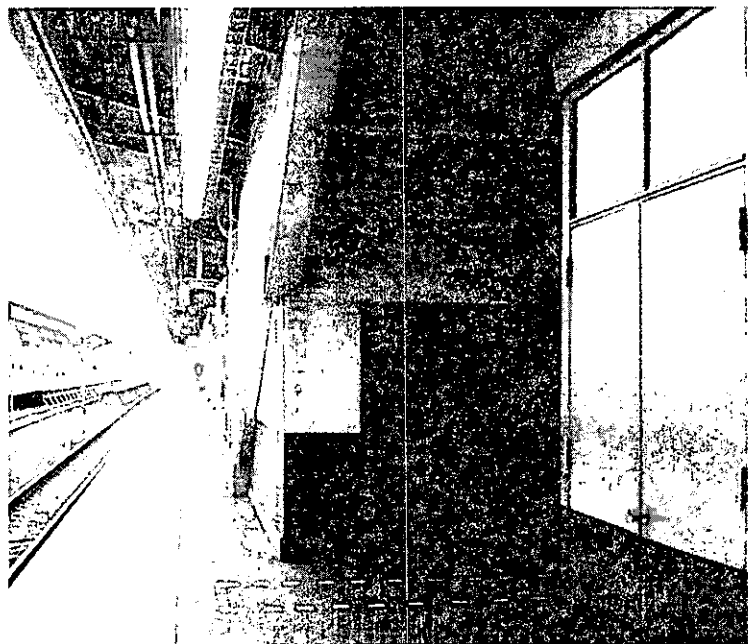
参考写真17：

霧降高原、六方沢橋の景観。（旺文社、上撰の旅、日光・那須・栃木より）



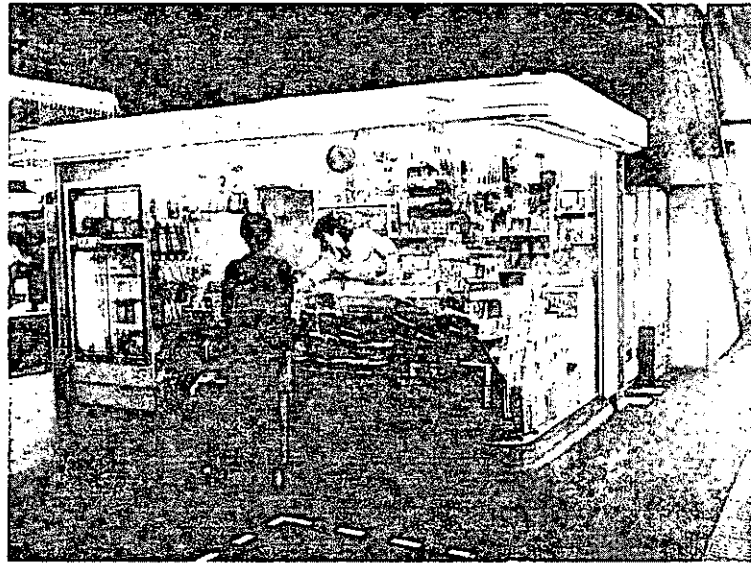
参考写真18：

階段下は飛び込み企図者が隠れてしやすい場所の一つ。



参考写真19：

(A) 階段下をキオスクでふさいだ例。

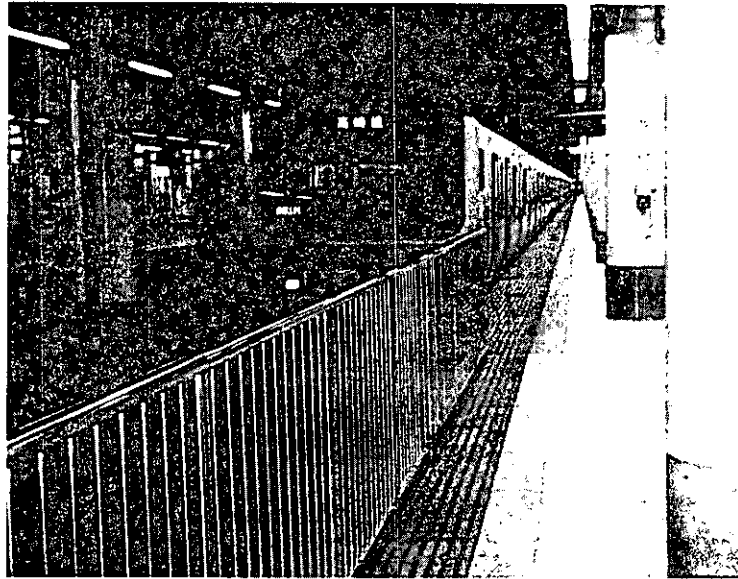


(B) 階段下をコーヒーショップにした例。



参考写真20：

列車進入方向側の安全柵。



参考写真21：

列車進入方向端部（左方向）のホーム向いの鏡。この例は、中央の広告が大きい反面、左右の縦長の鏡面が狭く、たまたま鏡の正面にでも立たない限り自分の姿は写らない。前面壁面10数メートルを鏡で覆えば、かなりの効果があると思われる。

